

インドネシア政府 防災研修

- 時期： 11月上旬
- 日程： 2泊3日
- 参加人数： 29名

目的：

東日本大震災被災地の現場から、復興計画の策定や防災・減災に対する考え方・政策を学ぶ。

- 行程 *全ての行程をおらが大槌夢広場職員が同行し、通訳と添乗を担当。

	時間	行程	備考
初日	移動	8:10 - 9:35	伊丹空港→いわて花巻空港
		9:45 - 11:00	花巻～陸前高田市 チャーターバス
		11:00 - 13:30	陸前高田市視察・昼食
		13:30 - 17:30	▷フィールドワーク①： 大船渡市視察&行政からの講話 大船渡市役所職員対応
		18:00	大船渡市内泊
2日目		8:00	ホテル発 チャーターバス
		9:00 - 12:30	▷フィールドワーク②： 大槌町視察&民間からみた復興 おらが大槌夢広場受け入れ
		12:30 - 13:30	昼食
		14:00 - 16:00	▷フィールドワーク③： 花露辺地区視察&住民主導のまちづくりについて自治会長からの話 花露辺自治会受け入れ
		16:30	山田町宿泊
3日目		7:45	ホテル発
		8:45 - 11:00	▷フィールドワーク④： 宮古田老地区視察&災害の歴史と対応について 宮古市市役所職員&建設会社受け入れ
		11:00 - 12:00	浄土ヶ浜にて昼食
	移動	12:00 - 14:30	浄土ヶ浜～盛岡駅
		14:30 - 20:00	途中仙台にて研修の後、東京へ

インドネシア政府 防災研修

研修ハイライト

大規模な自然災害に襲われやすいインドネシアですが、まだまだ「防災」の意識は低く、防災や減災への政府の取組も遅れています。そこで、立命館大学では、防災政策をテーマとした研修をインドネシア政府高官向けに行っています。今回は、その研修の一貫として、東日本大震災の被災地視察を行いました。東京で、日本政府や民間が行っている防災対策について講義を受けた後、東北では①地方自治 ②民間支援団体 ③住民 目線からの復興計画の策定・施行方法や課題などを学びました。

■フィールドワーク①：地方自治体からみる復興

大船渡市市街地の区画整理地区の土盛りの現場の視察の後、行政の方からの話と質疑応答を行いました。

国の役割、県の役割、そして町民と直結している地方自治体としての役割についての意見交換が活発にされました。また、大船渡市として復興計画に盛り込むためにこだわった内容やその理由について話をもらいました。



■フィールドワーク②：民間からみる復興

大槌町のフィールドワークでは、震災遺構として残す・残さないの意見が真っ二つに分かれている被災した役場庁舎の見学などを行い、「民意」を計画に反映させる重要さとその難しさについての話し合いが行われました。また、その「民意形成」の過程にて、「行政との橋渡し役」としての内部や外部からの民間組織が果たすべき役割についての議論も活発に出来ました。



■フィールドワーク③④：住民からみる復興

釜石市花露辺地区と宮古市田老地区の視察を行いました。「漁師町」という似かよった特性を抱えつつ、一つは防潮堤を立てないという住民主導の意思決定を行い、一つは「万里の長城」と言われているマンモス防潮堤再建の決定をしました。意思決定にまで至る住民と行政のやり取りや、地区存続をかけた思い、「地区のリーダー」となる人物の有無などの話を聞きました。



参加者の声

○通訳・添乗について

普段から復興計画や策定について説明することが多い職員が通訳を担当することにて、その背景や特殊養護などの通訳もスムーズに行うことができます。

- ・ 国・県・地方自治体と順を追って復興計画の策定にいたる過程の話が役に立った。
(インドネシア政府高官 男性)
- ・ 大学の授業で防災について教えているが、ハード面を重視しがちだった。今回、すべての自治体でソフト面の重要性について話をもらい、改めて「人の意識」をかえる重要性に気づいた。
(大学教授)
- ・ 官民一体となって復興に取り組んでいる姿勢から、学ぶことが多かった。「何のため・誰のための復興なのか」という問いかけをすることが大切だと感じた。
(インドネシア政府職員 男性)